

【見解】：「イスラム過激派によるテロリズムと報復主義及び

排他主義の問題点と私たちの立場」

2015年3月3日

日本福音ルーテル教会社会委員会

近年、北アフリカおよび中東のイスラム諸国における緊迫した状況の中で、いわゆるイスラム過激派と呼ばれる人たちのテロや非人道的暴力、戦闘行為が繰り返されてきました。先の2015年2月には、IS（「イスラミックステート」）による日本人の残虐な殺害も行われ、欧米諸国内でのテロ事件も頻発し、互いの報復行為が正当化されてきています。横行する報復の応酬の中で歴史認識の誤解やイスラム教への誤った理解も生じてきています。これらの争いは、いまや世界規模に拡大しつつあります。

こうした世界の緊迫した情勢の中で、私たちは平和を求めるキリスト者として、次の三点の事柄に対して危惧を覚え、私たちの立脚点を明らかにする必要があると感じています。

1. 宗教原理主義

一般にある思想や信条などに教条的に固執して、他者の価値観などを認めない傾向を原理主義といい、歴史的にどの宗教や思想においても、ある種の人々によって主張されてきたものですが、とりわけ宗教における原理主義的傾向は、「神の名」による自己絶対化を図り、それに基づく政治的・社会的主張を行おうとします。

歴史的に見れば、こうした宗教の原理主義的傾向は、ユダヤ教にもキリスト教にも出現しました。そして、現在の武装闘争（テロや戦争行為）を行っているイスラム過激派の多くの主張は、そうした宗教原理主義に立ったものであり、彼らの行為が「自分の正義」の主張に基づくものであると、私たちは認識しています。

原理主義の最大の問題は、「自分の正義」の主張のあまりに、他の価値観や異なる者を認めずに、これを排除しようとするところにあります。

私たちは、イエスがユダヤの中にあらわれた宗教原理主義ともいえる律法主義に対して神の愛とゆるしを説かれたように、原理主義的「正義」の主張ではなく、他者の存在を認め、対決ではなく平和と愛の和解へと進むことを望みます。

「正義」は大切なことですが、この世における「正義」は常に相対的なものであり、「愛」に基づかない「正義」は「正義」ではありえないと考えます。それゆえ、キリスト者として、いかなる宗教原理主義にも立たず、ましてや「正義」の名の下に武器をとって他者を排除する行為を是認することはできません。そして、そのために他宗教との対話と交わりをもち、他宗教の正しい理解に努めます。

2. 報復主義

現在、世界を席卷している報復主義について、私たちは深い哀しみを抱きます。「自分で復讐してはならない」という『ローマの信徒への手紙』（12章 19–21節）や同害報復を「愛」によって乗り越えることを教えた『マタイによる福音書』（5章 38–48節）がキリスト教の基本的姿勢であると考えます。

報復は報復しか生まず、報復行為によってもたらされるものが憎しみの連鎖と悲劇であることを、私たちは知っています。しかし、残念ながら、報復主義は歴史上度々出現しましたし、ことにアメリカ合衆国の中東政策とそれに対する反発などを背景として、現在、「報復」の名による行為と戦争が繰り返されています。

私たちは、イエスの教えに立って、いかなる報復行為も是認することができませんし、ましてや国家による報復などがあってはならないと考えています。「報復」には「愛」で答える道を進みたいと願いますし、そのための祈りをしたいと思います。

3. 排他主義

イスラム教とイスラム原理主義を混同して、イスラム教徒に対する排他的行為が行われています。異なるものを排除するという行為は、自己の正統性を主張して自己絶対化を行う行為にほかなりません。それが対立の構図しか生まないことを、私たちは知っています。平和を愛する民として、私たちは、いかなる排他的行為もしません。聖書の神は、世界の多様性を創造した神です。

私たちは、他者を排除するのではなく、人間が多様であることを受け入れ、愛をもって接していく中での対話による共存と和解の道を歩みます。

以上のことから、現況下での私たちの道は明白です。それは、他宗教、他文化、他国、他民族について正しい認識をもつように学び、争いに対しては平和と愛に基づく和解を求め、祈り続けていくという道です。

今こそ冷静な判断が必要とされていますが、憎しみではなく愛が増し加わる方向へと進んでいくことを、私たちは願っています。

以上